

2019年への視座

―世界経済の構造変化の中での日本

（二財）日本総合研究所会長
寺島実郎

- * 際立つ日本経済の低迷
- * 株価に変調が見え始めた
- * 日本企業凋落の現実
- * 夢にカネがつく時代
- * 日本の現場力が衰えている
- * 中国強大化にどう向き合うか
- * 高齢化社会への意識転換が必要
- * EUはどうなるのか
- * 脆弱な外資依存の日本株
- * 人間の本質と宗教性



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
今年も、おかげさまでもう最後の講演会になりました。今年のトリを務めていただくのは、皆様よくご存じの寺島実郎先生です。今年というよりも2019年の世界をどう見ていったらいいのか、世界と日本がどうなっていくのか、われわれの考える基本的な視点を今日お話しただけということでございます。
それでは寺島さん、よろしくお願いいたします。（拍手）

際立つ日本経済の低迷

寺島 寺島でございます。この会には定点観測のように毎年一回現れる形になっています。先週1週間、アメリカ東海岸を動いています。

ニューヨーク、ワシントンを動いてきたところです。直近のアメリカの状況も含めて、問題意識をできるだけ確にお伝えしたいと思います。
2019年への展望という意味でこの話を始めていくわけですが、例年12月に発表される、たとえばロンドンエコノミストの2019年展望、さらにはブルームバーグの2019年展望とか、新しい資料がどんどん出てきています。それを横目で見ながら、私自身の実感と結びつけて、来年展望として使い始めている言葉に、世界経済の変調という言葉が出てきます。世界経済が明らかに新しいというねりのようなものに向かいつつあるというのが、私自身も痛感することです。

まずIMFの世界経済見通し10月版です。こ